

交わりの障壁を取り除くイエス様

今日は聖書の中からマルコによる福音書7:31～37を取り上げさせていただきました。ここにはどんなことが書かれてあったでしょうか。一つひとつ見ていきましょう。

イエス様がガリラヤ湖という湖にやって来られた時のお話です。人々が「この人を治してあげて」と、耳が聞こえず、またうまく言葉を話すこともできない人を連れてきました。すると、イエス様はその人の両耳に指を差し入れて、それから唾をつけてその人の舌に触れて「エッフアタ」、「開け」と言われました。そうすると、この人はたちまち耳が聞こえるようになって、言葉もはっきりと話すことができるようになったのです。これが今日のお話です。

このお話をよく理解するために、イエス様に癒していただいた人のことを少し詳しく考えてみましょう。この人は、耳が聞こえなくて言葉もうまく話すことができなかったと聖書には書いてあります。耳が聞こえないということは、目の前にお友達がいっても、そのお友達が自分に話してくれている声が聞こえないということです。また、うまく言葉を話すことができないということは、自分からお友達に何かお話ししようとしてもそれができないということに他なりません。皆さんでしたらそんな状態に置かれた時、どのようにしてお友達と言葉のやり取りをするでしょうか。

今は識字率が高く、皆が文字を知っているというのが当たり前になっているので、それだったら文字を書いて言葉のやり取りをすると思うかもしれません。でも、当時は識字率がものすごく低い時代です。文字を知っている人というのは教養のあるほんの一部の人たちだけで、ほとんどの人が文字の読み書きができないという時代でした。だから当時で耳が聞こえなくて、言葉をはっきりと話すことができなかったこの人は、お友達と言葉のやり取りをして気持ちを伝え合うということがほとんどできない状態にあったのです。

で、もう少しこの人のことを考えてみたいのですが、当時は、この聖書箇所に出てくる人のように耳が聞こえなかったり、言葉が話せなかったり、いわゆる「障がい」を抱えた人というのはすごく差別されていました。別に何も悪いことをしていなくても、「耳が聞こえない、言葉がうまく話せないというのは、この人が何か悪いことをして神様から罰を受けたからだ」と決め付けられて、「皆あんな人と付き合ったらだめだよ」と誰とも普通にお付き合いをしてもらえなかったのです。だから、「障がい」を抱えた人は、たいていは皆から追いやられて、一人ぼっちでいるしかありませんでした。

でも、今日の聖書箇所をよく読むと、この人にはイエス様のところに「この人を治してあげて」と、自分を連れて行ってくれる大切な人々がいたことが分かります。それがお友達だったのか家族だったのかは聖書に書いていないので分かりませんが、とにかくそういうかけがえのない人々がいたのです。けれども、この人は耳が聞こえなくて、言葉もうまく話せなかったために、せつかく自分のことを思ってくれるかけがえのない大切な人々がいるのに、その人々とほとんどコミュニケーションを取って気持ちを伝え合うことができませんでした。それはものすごく辛いことだと私は思います。

しかし、イエス様はこの人を癒して、かけがえのない大切な人々と言葉を交わせるように、気持ちをうんと伝え合って親しく交わることができるようにしてくださったのです。イエス様が「障がい」を癒されただけでなく、交わりを阻んでいた障壁も取り除いてくださったのだということ、今日の聖書箇所から私たちは読み取らなければなりません。

で、ここで私たちのことを振り返ってみましょう。私たちの中には「障がい」を抱えた方もおられますし、そうでない方もおられます。今日のお話は「障がい」を抱えた人の癒しのお話だから、「障がい」を抱えた人しか関係のないお話でしょうか。決してそうではないですよ。

今日のお話からは色々なことが読み取れます。耳が聞こえなくてうまく言葉を話せなくても、当時の差別や偏見に抗ってきちんと心を通わせてイエス様のところに連れてきてくれる人がいたというところから、今の「障がい」を抱えた人を取り巻く周囲の人の在り方について示唆を受けることもたくさんあるでしょう。また、今日のお話を、イエス様が交わりを阻む障壁を取り除いてくださるお話として読めば、「障がい」のあるなしにかかわらず皆が学ぶべきことも見えてくるはずです。

私たちの交わりを阻むもの、それは耳が聞こえないとか、言葉も話せないとかだけでは決してありません。それ以上に交わりを阻むものはたくさんあります。私自身、振り返ってみても、かけがえのない大切な人に囲まれているのに、うまく言葉を交わして気持ちを伝え合うことができない時というのはたくさんありました。

たとえば、喧嘩した時です。ものすごく大切な人なのに、喧嘩した後は「腹が立つ！」という気持ちが邪魔をして、向こうがこちらに話してくれている声が素直に聞こえてこなかったり、こちらから向こうに自分の気持ちを伝えようとしてもうまく話せなかったり、言葉が出てこなかったりしてしまいます。私たちは本当に罪人で自分勝手な感情に流されやすい生き物で、その感情が交わりを阻む障壁になってしまうのです。

そんな時、気持ちを伝え合うのを邪魔するすべてのものを取り除いて、私たちを親しい交わりの中に招いてくださっているイエス様が、2000年前の聖書のお話の中だけでなく、今も私たちと一緒にいてくださっているということを思い出しましょう。その時、イエス様はきっと私たちに「エッフアタ。開け。心が開け」と声を掛けてくださいます。そして、私たちの心を開いてくださいます。

これから先も、私たちには大切な人とぶつかる時というのはたくさんあることでしょう。でも、そのたびにイエス様に和解させていただきたい、そうしてかけがえのない大切な家族、お友達とまたお互いうんと気持ちを通わせながら、神様の愛に包まれて皆で一緒に成長していきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——